

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 5 月 28 日現在

機関番号：34316

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520862

研究課題名(和文)中国古代都市社会形成論

研究課題名(英文)A Study of Formative Process of Chinese Ancient City Society

研究代表者

江村 治樹(EMURA, Haruki)

龍谷大学・文学部・教授

研究者番号：80093201

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円、(間接経費) 870,000円

研究成果の概要(和文)：都市遺跡のデータベースによって作成した「二里頭・殷周都市遺跡表」、都市遺跡の現地調査および中国の研究者へのインタビューなどに基づき、二里頭文化期から殷周時代までの都市社会を分析し、都市社会の形成過程を考察した。その結果、この時期の都市は基本的に城郭都市であることが判明した。そして、二里頭文化期において、都市社会はすでに族的、文化的に複合した社会であった。殷周時代の都市社会も、外部からやってきた少数の支配者が、前王朝の多数の支配層や土着民を支配する複合社会であるが、西周期に入るとしだいに同化が進行し、春秋時代や戦国時代には都市住民の共同体が成立してくる。

研究成果の概要(英文)：Based on "The Erlitou and Yin Zhou city ruins list" that I made by the database of the city ruins, field work, and interview to Chinese researchers, I analyzed the city society from the Erlitou culture period to the Yin Zhou period, and examined the formative process of the city society. As a result, the cities of this time are proved to have basically been walled cities. And, by the Erlitou culture period, cities had already been ethnically and culturally complex societies. The city society of the Yin Zhou period was also a complex society in which a few rulers from outside dominated the ruling class of the former dynasty and many indigenous people, but the assimilation of the city people gradually advanced in the West Zhou period, and consequently, city community was established in the Spring and Autumn period and the Warring States period.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・東洋史

キーワード：都市社会 新石器時代 二里頭文化 殷周時代 考古学

1. 研究開始当初の背景

(1) 戦国時代を中心とする時代は、中国歴史上で際立って都市の発達した時代として日本においても、中国においても全く異議は存在しない。しかし、その都市の性格に関しては、意見は真っ向から対立している。宇都宮清吉氏は戦国時代の都市は内在的な経済的要因によって発達した商工業都市と考えたが(「西漢時代の都市」『漢代社会経済史研究』弘文堂、1955年)、宮崎市定氏はこれに正面から反論し、戦国時代において確かに都市は発達したが、それは専制権力によって首都や軍事都市が外在的に発達させられたものであって、戦国時代の都市は基本的には弱小の農業都市に過ぎなかったとした(「戦国時代の都市」『東方学会創立十五周年記念東方学論集』1962年)。日本においては、この宮崎説が考古学的にも補強されることによって支配的な考えとなっている。しかし、中国においては現在でも、宇都宮説のような経済的要因説が支配的である。

(2) この対立の原因を都市遺跡の分布から分析すると、両者はその一面しかとらえていないことは明らかである(「戦国時代の都市とその支配」『東洋史研究』48-2、1989年)、『戦国秦漢時代の都市と国家』(白帝社、2005年)。すなわち、黄河中流域の中国中心部では自律的な経済都市が発達し、その周辺では基本的に未発達のまま止まっていたと考えられる。しかし、その後、新しい考古資料の出現により、広大な中国の古代都市の実態をこのように一概には捉えきれないことが明らかになってきた。基本的な構図は変わらないが、例外的な現象が散見されるようになってきたのである。そのため、都市周辺も視野に入れた具体的でより詳細な検討が必要となり、平成18～20年度に科学研究費を取得し(研究課題「春秋戦国秦漢時代の都市とその周辺」)、新資料も含めた資料の全面的再整

理と現地調査を行った。これによって、戦国時代を中心とする都市の性格には地域的な特色が存在し、独自の歴史的、地理的状況が存在することが明らかになってきた。すなわち、戦国時代を中心とする都市の地域的な特質を解明するためには、それに先立つ殷周時代、さらには新石器時代の都市のあり方を視野に入れ、全体的な都市の歴史の中で捉え直す必要がある。

2. 研究の目的

1990年代に入って、山東省や湖北省、湖南省、四川省などで新石器時代の城壁都市が多数発見されるようになり、殷周時代の都市遺跡についても新しい遺跡の発見だけでなく、従来から知られている二里头遺跡、偃師商城、鄭州商城、殷墟、周原遺跡などの遺跡についても新しい発見が相継いでいる。現在では、戦国時代を中心とする都市だけでなく、それに先立つ時代の都市についても、地域的に具体的検討を行うことが可能な状況になってきている。まず、本研究では、新石器時代から殷周時代の都市遺跡資料を網羅的に収集整理し、この時代の都市の地域的特質を明らかにする。それを踏まえて、戦国時代を中心とする都市との形態上、地理的環境上の比較を行い、さらに住民を視野に入れた、より内在的な性格の分析を進め、改めて戦国時代を中心とする都市発達の歴史的意義づけを行う。

3. 研究の方法

(1) 新石器時代から殷周時代の都市研究には文献史料の収集も必要であるが、文献史料の限界から必然的に考古資料の収集が中心となる。考古資料は、前回の科学研究費の研究と同様、地図や図版資料の整理を行うことができるマイクロソフトのデータベースソフト「ファイルメーカーFileMaker」によってデータベース化を行った。春秋戦国秦漢時代の都市遺跡データベースと同様に、当該

時期の都市周辺の遺跡についても資料を収集した。また、都市遺跡の周辺の把握については現地調査の必要もあり、前回の科学研究費の場合と同様、中国社会科学院歴史研究所副所長（先秦史研究室）の王震中教授に直接協力を仰ぐとともに、王教授の助力によって全国に拠点のある中国社会科学院考古研究所の研究者との連携を深めた。また、古代都市に関係する中国の国際学会に出席して最新の情報を収集した。

(2) そして、以上の新石器時代から殷周時代の都市並びに周辺遺跡のデータベース化、現地調査の成果や中国の研究者へのインタビューを踏まえて、当該時代の都市の形態と特質を明らかにした後、戦国時代を中心とする都市との比較検討を行い、新石器時代における都市の生成から漢代の都市の衰退の過程の中に戦国時代を中心とする都市発達の歴史的な位置づけを行うことを目指した。

4. 研究成果

(1) 三年間の研究を通して、考古学の発掘報告書、考古学関係雑誌、『中国文物地図集』などから新石器時代から殷周時代の都市遺跡ならびにその周辺遺跡の資料を検索、収集し、データベースソフト「ファイルメーカーFileMaker」によってデータベース化した。データのカード数（レコード数）は、以前に作成した春秋戦国秦漢期の都市遺跡を含めると7000点以上に達した。そして、このデータベースを整理して「二里頭・殷周都市遺跡表」を作成した。この表は後述の研究成果報告書ならびに拙著に掲載して公表した。

(2) 第一年度は河南省内の都市遺跡の現地調査を行った。この調査では中国社会科学院歴史研究所副所長の王震中教授と山東大学歴史文化学院の張昀講師に協力を仰ぎ、安陽の洹北商城、殷墟、偃師の二里頭遺跡、偃師商城、鄭州の商城、新密の古城寨、新鄭の望京楼城址、鄭韓故城などを調査し多くの新知見を得た。この成果は他の都市遺跡資料と

あわせて整理、分析し、「河南竜山・二里頭・殷周都市の特質-2011年、中国古代都市遺跡調査報告」（名古屋大学文学部研究論集・史学58、2012年3月）として公刊した。第二年度には山東省の高青県で開催された中国殷商文化学会主催の中国古代都市に関わる国際学術研究会に出席するとともに、山東省内の都市遺跡を調査した。研究会では先秦都市に関する研究発表「關於先秦時期城址的發展過程-從商周至戰國時期」を行い、先秦都市に関わる情報を多く得た。この研究会では高青県の陳庄城址を見学することができたが、研究会終了後、山東大学歴史文化学院の張昀講師に協力を仰ぎ、高青県東部の延郷故城址、寨下遺址、賢城故城や鄒平県の丁公遺址を調査し、さらに東方に足を延ばして、竜口市の帰城古城、蓬萊市の村里集古城、平度市の即墨故城などを調査し多くの新知見を得た。最終年度は、北京の中国社会科学院歴史研究所と考古研究所の図書室で都市遺跡関係資料を調査、収集し、かつ王震中、許宏、杜金鵬氏などの研究者に古代都市に関するインタビューを行い最新の情報を入手した。

(3) 以上の「二里頭・殷周都市遺跡表」と都市遺跡の現地調査、中国の研究者へのインタビューなどに基づき、二里頭文化期から殷周時代の都市社会を分析し、その形成過程を考察した。その結果、この時期の都市は基本的に城郭都市であり、無城郭の二里頭遺跡、殷墟、豊鎬などの王都はむしろ特殊な都市形態であることが判明した。そして、二里頭文化期以来、都市社会は複合的な族的、文化的な様相を有しており、殷周時代の都市社会も外部からの少数の支配層が、多数の「夏遺民」や殷遺民、土着民を支配する複合社会であるが、西周期に入るとしだいに同化が進行し、春秋、戦国期の都市住民の共同性が成立してくることが予測された。この研究成果は、「先秦都市社会の形成-二里頭・殷周から戦国へ」（東洋史苑81号、2013年12月）として公表

し、この論文と現地調査の成果をまとめて研究成果報告書『中国古代都市社会形成論』

(2014年3月)を公刊した。また、四川省広漢市で開催された中国殷周学会主催の国際学術研討会に出席し、研究成果に関わる発表「二里头及殷周都市社会的特徴」も行った。

(4) 中国においても都市や聚落の族的、文化的な複合性に関する研究はまだ十分に進められていない。この点は、今後考古学的に注意深く検証していく必要がある。そして、初期国家や殷周の国家と都市社会の関係の検討が今後より深く進められる必要がある。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

- ① 江村 治樹、先秦都市社会の形成-二里头・殷周から戦国へ、東洋史苑、査読無、81号、2013年、pp.1~61
- ② 江村 治樹、河南竜山・二里头・殷周都市の特質-2011年、中国古代都市遺跡調査報告、名古屋大学文学部研究論集、査読有、史学58、2012、pp.17-47
<http://ir.nul.nagoya-u.ac.jp>

[学会発表] (計4件)

- ① 江村 治樹、殷周時代の都市、四川大学文化科技協同創新研発中心講演会、2014年3月31日、四川大学博物館(中国四川省成都市)
- ② 江村 治樹、二里头及商周城市社会的特徴、夏商周方国文明国際学術研討会、2014年3月28日~2014年3月29日、三星堆博物館(中国四川省広漢市)
- ③ 江村 治樹、先秦貨幣研究の方法と目的-拙著『春秋戦国青銅貨幣の生成と展開』の研究視点、中国社会科学院歴史研究所講演会、2013年9月3日、中国社会科学院歴史研究所(中国北京市)

- ④ 江村 治樹、關於先秦時期城址的發展過程-從商周至戦国時期、甲骨学暨高青陳庄西周城址重大發現国際学術研討会、2012年08月08日~2012年08月10日、中国山東省高青県高青迎賓館

[図書] (計2件)

- ① 江村 治樹、(名古屋大学生協同組合・印刷部)、平成25年度科学研究費基盤研究(C)研究成果報告書、中国古代都市社会形成論、2014、110
- ② 江村 治樹、汲古書院、春秋戦国時代青銅貨幣の生成と展開、2011、472

6. 研究組織

(1) 研究代表者

江村 治樹 (EMURA, Haruki)

龍谷大学・文学部・教授

研究者番号：80093201

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

王 震中 (WAN, Zhenzhong)

中国社会科学院・歴史研究所・副所長

研究者番号：なし

張 昀 (ZHANG, Yun)

中国、山東大学・歴史文化学院・講師

研究者番号：なし